

泌 尿 器 科 紀 要

第 9 巻 第 8 号

昭和 38 年 8 月

随 想

可 愛 い 子 に は 旅 を

京都大学泌尿器科 大学院学生 小 林 宏 暢

編者記「小林君は昭和37年7月から米国 Florida 州 Jacksonville の Saint Vincent's Hospital にレジデントとして留学している。教室宛ての最近の通信を茲に掲載する」

自分の目で見た外国の印象を通して日本の良い点、悪い点が少し分った様な気が致します。身近かに感じた事を書き並べて、日本人とアメリカの南部フロリダの住民いわゆる*フロリダクラーカーとを較べて見度いと思います。健康保険の下で事務屋の仕事を兼ねている日本の医者、インターンを終えた学士様が生活の保障なく大学病院に通つて医学の道を窮めている痛ましい姿はアメリカでは見当りません。

今日は医学を除いた一般生活を述べて見ます。日本は自然にしる、人間にしる、割合、類型化していますが、アメリカは何れもその差が大きい様に思われます。自然の人間生活に及ぼす影響、歴史的背景、人種の混合、経済生活の様相、生活環境、言語、これらがお互に作用、反作用を繰返して現在のアメリカが出来ています。この中で出来たバラエティーは相当各方面で層の大きい物ですが、しかしこの大きな層の中に於てアメリカの南部の雰囲気を感じられます。さて島国に住む日本人と大陸に住む人間とでは物の感じ方が違うと思われま

す。当地方では I am scared to death. とか I am starving to death. とかを盛んに用います。非常に大げさな表現で、日本でこんなことを云へば言葉の価値が下つて来る事でしょう。これでは I love you と云われても余りピンと来ない様な気がします。言葉が人間の物の考え方を支配する事は疑う迄もなく、ドイツから来ている女のレジデントと話して見ますと、彼女の科学的な物の考え方に驚きます。同様にイタリアから来ているレジデントは非常に芸術的です。勿論個人差が大きいですが、それを超越した何物かがある様です。さて笠信太郎氏の“物の見方について”を昔読んだ時に余りピンと来ませんでした。が、自分で体験してみても程と感じられます。国民性の面白い面を突いていると感じさせられます。日本を発つてサンフランシスコの空港を下り、ダウンタウンに行く時に初めて見る high way を無数の自動車が高速度で走っている風景に度肝を抜かれぬ日本人は余り無いでしょう。話やテレビや映画で予備知識は有つても、又何か違つたものが実感として脳裏に焼き付けられます。ピラミッド、万里の長城と共にアメリカの high way は現代の驚異と云えるでしょう。さてフロリダ州を機会ある度にバス旅行して見てアメリカの規模の大きなのに驚きました。何十マイルと何百マイルと続くミカン畑、その次に果しなく続く swamp 地帯、何処迄行つても次の町に着く迄は時々すれ違う自動車を除いては、人影見当らぬ単調な景色。何百エーカーとも知れぬ牧場にちらほらと馬や牛が草を食んでいる風景、これがアメリカでのバス旅行で、旅行中は退屈して居眠りするのが関の山。ニューヨーク程はないにしてもマイアミに入れば摩天楼の乱立。丁度熱海を縦に横に広げた様なもの。日本の如く地震が無いとは云え、その規模は大きなものです。が一般の家庭生活は合理化され全然情緒が有りません。Jacksonville にしても人口30万位の都市であり乍ら、京都市より広いでしょう。勿論当市の郊外を除いて、京都は伏見、山科を入れて、市バスは何10分も早かつたり遅かつたり、しかも1時間に1本か2本ですから買物に行くにも自動車で、しかも1週間分の食物を買い冷蔵庫に入れて貯蔵するのを見ては余りおいしそうでありません。野菜も肉も冷凍でかちかち、大抵の物が罐詰でシチューでも

何でも歸を暖めれば終り。しかも食物の種類が少く毎日余り変りばえ無いもの許り。又食卓そのものが美的ではありません。これでは食生活の情緒なんか程遠いもの。人件費の高い為か女権の強い為かバーはあつても女の子は居ませんし、30万を越える当市で一流のナイトクラブでもバンドはせいぜいトリオ迄。若いティーンエジャーが喫煙するのを見たらぞつと致します。しかも彼等は現在が楽しく過せば良いと云う考え方ですから生活そのものは自然利他的で **Why don't you enjoy your life?** と云う訳。その結果がデイトと云えるでしょう。昨夜グッドナイトキスをしたボーイフレンドに翌日会つても知らん顔をして通り過ぎると云う事は、日本人の感覚では納得行きません。先日40才過ぎの医者の方に遊びに行き奥さんがアルバムを見せて下さいました。御主人の居る前で何人もの昔のボーイフレンドの写真を見せて彼とどうであつた、他のボーイフレンドはどうであつたと説明して呉れるので第三者としては面白いのですが、さて自分がこんなフラウを持つたらどんな心持がするかと考えますと一寸戦慄を覚えます。が又それ丈に心のゆとりがあり **Sense of humor** があるのかも知れませんが。彼等はよく人をからかつたり笑わせたり致しますが、これが又日本人の感覚では理解出来無いもので、しかも大部分がセックスに関係するもの。如何に **Drs.** が好色家とは云え、少し度が強過ぎます。話が元に戻り、この奥さん一家はとても日本ひいきで北部出身の音楽や絵画が好きな一家。奥さん曰く、当市に10局を越えるラジオ放送局でただの一局しか **Classic music** を放送していないと嘆いていますから、一般大衆の情緒のない事は御想像に難く無いと存じます。立派な美術館があつても余り人は入つてなく、京都会館より立派なステージにやつて来たブタペスト弦楽四重奏団の入場者が4分1足らず。さて4月上旬のポスト紙上に広告を通した日本の独自性を載せていましたので面白く読みました。これを見ましても日本の方が情緒的である事が分ります。情緒と云えば当フロリダには温泉は無く又アメリカ人は余りお風呂を好みぬ様に見えます。日本人として外国生活中一番日本を恋しく思うのはお風呂に入れない事と、刺身とうまい米の食べられ無い事でしょう。アメリカの悪い面ばかり書きましたが、反面美やましく思われます事は、この国は希望のある国であると云う事です。自分のやりたい仕事をしてその結果が報いられる国です。何をしても誰からも束縛を受けませんし、日本の様に無理をして苦学しなくても幾らでも職はあるし全てが能動的に出来ている国であります。前途に希望のある若い国であり日本の様な自殺等余りお目にかかりません。その代り日本人の様に引込み思案でいれば結婚の相手も見付からぬ事にもなりかねます。国民全体がこの様な気質ですから親は親、子供は子供で、金持になれば財産を公共施設に寄付するといった傾向があります。情緒とか親子関係が日本よりも薄く、単的に云つてドライな感が致します。とに角私はアメリカに来て始めて日本の情緒の有難さが分り、結局日本人には日本が一番良い国であるとの感を強く致しました。これが“可愛い子には旅をさせ”の結論であります。さて当病院にはキューバーやハンガリーからの亡命者が沢山いますので実際の共産主義がどんなものかが比較的良く分ります。家財一切を故国に残して1/6の人口約100万人が何故キューバーを離れたか。彼等の生活はアメリカでは黒人並であります。キューバーの亡命者はほとんどが医者、弁護士、**technician** 等のインテリで皆昔相当の生活をしていたにもかかわらず共産主義よりは今の貧しい生活を余程楽しんでいる様です。何故に、それは個人によつて意見が違う事でしょう。実際の共産主義について何か考えさせられるものがあります。

* フロリダクラッカーについて：**Florida** 地方土着の住民を輕蔑してこう呼びます。なお辞書を見ますと **Cracker** は薄くて固いビスケット、南部地方の貧民とあり、**the cracker State** は米国の **Georgia** 州の通称としてあります。**Georgia** 州の農民は元、豚や牛の脂肪から油をしぼり取り、このしぼりかすを **Cracker** と呼びました。さて全ての州はニックネームがあり例えば **Florida** は **Sunshine State** で、**Florida** にも **Cracker** がいましたので、**Florida Cracker** と云う訳です。